

「人の駅・川の駅・道の駅」拠点整備事業に係る
地域振興施設等設計業務プロポーザル

会津観光の拠点・・・「歴史」「文化」「人」「物」「食」の 広場

01 会津盆地の中心 「360度パノラマ展望広場」の提案

本計画敷地は会津盆地のほぼ中央に位置し、周囲を磐梯山や飯豊連峰、大戸岳、博士山などの美しい山岳に囲まれています。盆地であることは会津の歴史・文化に深く関わっており、それを知る事が会津を理解するうえで不可欠です。

それらの素晴らしい景観を一望にし、歴史と文化をも展望する「360度パノラマ展望広場」の設置を提案いたします。

ここからは古来、水運で栄え会津を支えた阿賀川の雄大な流れも展望することができます。



02 展望広場の構成 歴史的建造物「さざえ堂」をモチーフに

イベント広場の周囲を会津の歴史的建造物「さざえ堂」をモチーフとした二重螺旋のスロープが取り囲み、周囲の景観やイベント広場に集う人々などを眺めながら登ると360度の展望が劇的に展開する展望広場へと到達します。鶴ヶ城も遠望可能です。

展望広場は屋内・屋外からなり、冬期間も冬の会津盆地の景観を楽しめます。イベント広場は展望広場へと吹き抜ける空間であり、夏季は熱気を自然に排出する「風の道」としても機能します。

03 物と人の交差点 地域資源を活用する「会津ものづくり館」の提案

会津の歴史と文化は中世の仏教文化をはじめ、阿賀川によって伝えられ、育まれて来ました。阿賀川は塩や海産物を会津へ運び、会津の米や工芸品を運び出してきました。

本敷地はまさに陸路と水運の交差点に位置します。

会津は様々な伝統工芸の宝庫（木工・漆器・陶器・木綿etc.）であり、IT関連など現代の物づくりの拠点でもあります。それらを総合する「会津ブランドものづくりフェア」も毎年開催されています。

本施設に常設の「会津ものづくり館」を設け、情報を発信し、活性化を図る施設とします。近年地元はもとより、各地から訪れた若者たちが伝統技術を会津で学び、新たな伝統工芸を生み出してきています。また、新たなブランド農産物の生産も盛んとなってきています。

単にモノを展示し販売するだけでなく、伝統工芸から農業、最先端の物づくりまで、それらに従事する若者たちが集い、交流し、起業してゆくことをサポートする「交流サロンとインキュベートルーム」を「人の駅」に設け、各種NPO団体、法人と連携を図りながら運営してゆきます。



04 自然の恵みを最大限に生かした施設づくり 経済性と環境対策

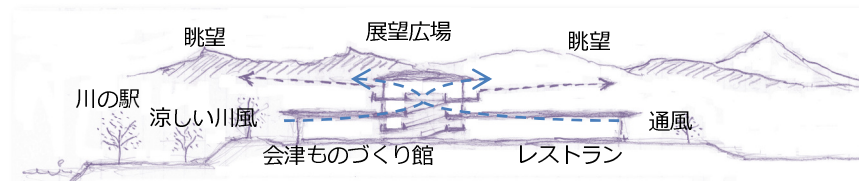
豊富な地下水を積極的に利用した地中熱（昼夜間又は季節間の温度変化の小さい地中の熱的特性を活用した安定エネルギー）空調を採用し、年間を通しエネルギー消費量、CO2発生量を削減します。雪国、寒冷地には最適のシステムと言えるだけでなく、使用電力を大きく削減し、メンテナンスもほとんど必要がないなど経済的にも大きなメリットがあります。

地下水は冬期間には駐車場や施設屋根の融雪、夏季には屋根散水と駐車場散水（打ち水）による空調負荷の低減にも利用します。通年風の強い地の利を生かす小規模風力発電も重要な要素となります。

05 会津の気候風土を生かした施設づくり 民家の様々な知恵

会津地方の民家の様々な知恵を取り入れた施設とします。建物前面には「雁木」を設けます。この空間は単なる通路ではなく、「縁側」として内外空間をスムーズに連続させると同時に、冬季の雪害防止、夏季の日照制御、雨天時の通風などにも効果を発揮します。

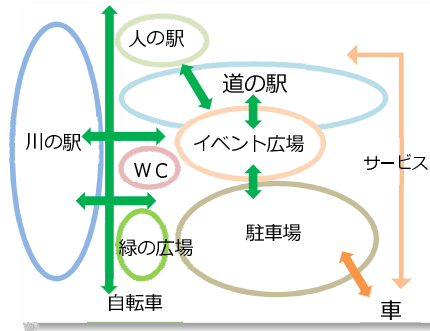
建物北西部には「屋敷林」を設け建物形状は「曲がり屋」とします。盆地内に数多く点在する鎮守の森、屋敷林は会津の代表的な田園風景です。冬季の強烈な北西風から建物とイベント広場など外部空間を守り、新たな風景を提供します。



06 求心的な土地利用 イベント広場を中心に

イベント広場を囲むように敷地北に「道の駅」、南に駐車場を配置します。建物は曲がり屋風のL型として、季節を問わず北西から吹き付ける風から訪れる人々を守ります。L型の建物は国道からの視認性も高く、中央部に配置される「展望広場」がさらに視認性を高めます。

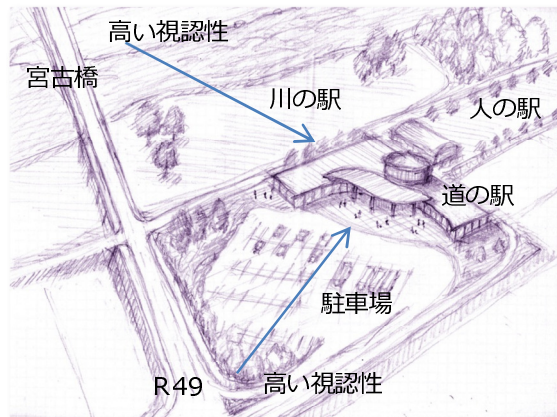
「川の駅」とも建物内外で有機的に連携します。「人の駅」は「道の駅」に連続した配置とします。「会津ものづくり館」と内部通路で繋がり、相互の連携がしっかりとれる配置とします。訪れる人々のコミュニケーションが生まれます。



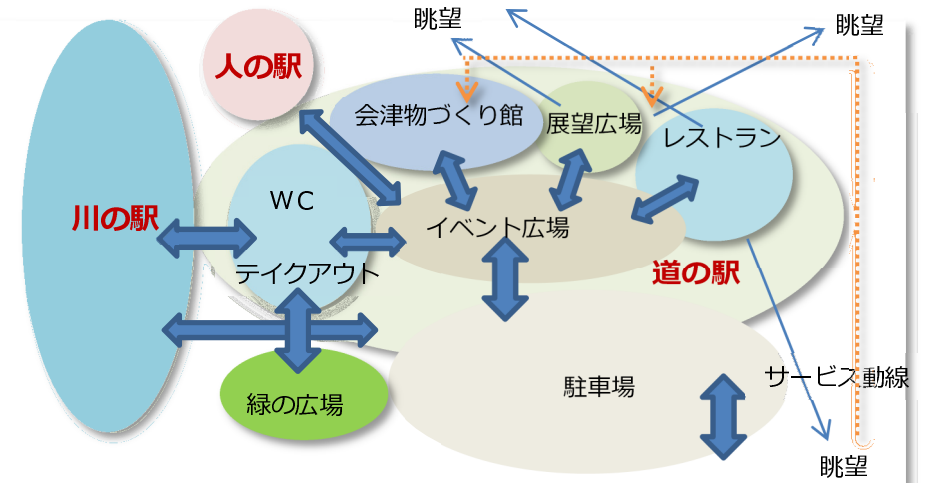
07 賑わいを生み出す空間構成 利用者を温かく迎える形態

「道の駅」は中央部に配されたイベント広場を囲むように各施設を求心的に配置します。全てが広場に顔を出し一目で見渡すことができる利用を誘発する構成です。

連続して「展望広場」を配置します。「レストラン」からは飯豊連峰から磐梯山、鶴ヶ城方向まで会津盆地の眺望が楽しめます。



「テイクアウト」は「イベント広場」や「緑の広場」、「川の駅」に隣接し、風景や風を感じながらの屋外での飲食も楽しめる配置です。施設配置は車の動線に正対し、正面性を持つ利用者を温かく迎える形態とします。「道の駅」はスーパーマーケットの様な大空間とはせず、10尺材を活用した1.5間



モジュールを基本にします。あたかも街道筋の街並みの様な、城下町の「お日市」の様な人々が賑わう親しみやすい街並みを再現した空間構成とします。

画一化してきている他の同種施設と差別化し、「歴史の街」会津のイメージにふさわしい懐かしさを演出してゆきます。

「会津ものづくり館」には既存の商品売り場だけではなく、新たなものづくりに取り組む若者たちに4.5帖のインキュベート出店スペースを併設されたいかがでしょうか。技術を磨き、新しいアイデアを持つ若者たちが発信し、市場の反応を得てさらに商品化してゆけるような場を提供し起業を援助することで、若者たちによる新たな「地域の活性化」が可能になって来るのではないのでしょうか。

08 地場産材、地域の技術活用 伝統技術と最先端技術の融合

軸組工法を基本に、伝統と最先端の木構造技術の融合を目指します。地場産流通材を積極的に建設に使用し、地域の技術者に工事に参加を呼びかけることで、維持管理・メンテナンスまで継続した地域との係わりを築きます。

また、木材の保護には会津で開発された含漆UV塗料や伝統的な柿渋塗料など地元の自然塗料を活用します。無垢木材の香り、手触り、木目の美しさを引出し年月とともに風合いを増してゆく施設にしてゆきます。

地場産材である「桐材」「陶板」「煉瓦」などの採用はもちろん、建設工事を通してこれまで私たちのグループが取り組んできた「宮大工」「左官の漆喰」「瓦葺」などの伝統技術を継承し、発展させてゆく最適の場にもしてゆきたいと考えています。技術を発揮できる場を作りだしてゆくことこそが、技術継承に繋がってゆきます。

09 持続的な地場産材の供給システム構築 林業の再生と環境保全

昨年の震災での復興住宅建設を機に各地で幾つもの地域住宅生産者グループが立ち上げられています。特徴は川上から川下まで様々な業種で構成されている事です。

今回の計画ではそれらのグループと協同し、木材の生産から消費までの一元的管理の推進、システムの構築を図ってゆきたいと考えています。

単年度工事の発注が多い公共工事では伐採、乾燥、製材の時間を考えると、なかなか地場の木材を供給・使用することが困難な現状ですが、木材を原木生産者、製材業者からなる生産者グループに事前分発注し、資金を流せるシステムを構築することによって、地場産材の使用が可能となります。

また生産者にまで資金が流れることで、山林の手入れをすることが可能になり、森林荒廃を食い止め、再生産、環境保全を図る手立てとなります。